

新刊

□上野雄規(編):北本州産高等植物チェックリスト 365pp. 1991. 東北植物研究会. ¥6,000 (送料¥410).

東北6県と隣接の新潟,茨城,栃木,群馬の4県に産する,シダ以上の高等植物のリストで,合計4228種類があげられている.チェックリストなので植物名以外の記述はなく,産地はきわめて簡単な略地図に,県単位でマークがつけられている.県ごとの標準的な文献と,それを補う多数の地域記録から得たデータが,別なマークで表示されている.植物自然誌の探究のうえからも,環境問題や自然保護問題に対応する必要からも,これまでのフロラの知識を正確に見なおす必要がたかまっている昨今,こういうチェックリストは,その出発点としてどうしても必要である.

環境庁では1984年から,日本の高等植物の全リストと分布表を作る企画を立て,1987年に「植物目録」が刊行されたが,これと平行して意図された県単位の分布表は,不完全なまま目の目をみえない.その理由の一つは,多くの植物関係委員が主張した「我が国では県ごとに有力な植物研究会や同好会が活動しているので,これら地域集団に費用と活動の場を提供すれば,こういうチェックリスト作成の機運が盛り上がるので,自他ともに益することになり,地域の環境研究活動の振興にもつながる」というアドバイスが当局の認識するところとならず,経費が中央にのみ握られていることにある.「レッドデータブック」にせよ「植物目録」にせよ,各地の方々にはその都度大変なお世話になっているのだが,それらはほとんどただ働きで,地元の方々はその以外にも頻々とやってくる,いろいろなリクエストの相手に疲れておられるのが現状である.

本書は企画から4年の努力を経て完成したもので,その内容は,正に環境庁が意図した分布表そのものである.編集者と各県の校閲者はじめ,参画された多数の方々のボランティア精神に敬意を表する一方,環境庁の委員の一人として名を連ねながら,何の手助けもできなかった自分としては慙愧にたえない.この人達は,国がやらねばなら

ぬことを,自腹を切ってやったのである.基礎科学の振興が国の方針として打ち出されながら,こういう例がなんと多いことだろう.東北植物研究会の所在地は〒989-02 白石市城北町 7-28 (上野方)である. (金井弘夫)

□Sachs T.: *Pattern formation in plant tissues* 234 pp. 1991. ISBN No. 0-521-24865-5. Cambridge University Press, Cambridge. \$75.00.

Barlow, Bray, Green and Slack (ed.), *Developmental and Cell Biology Series* の一冊.物質レベルの研究が生命現象の解明に多くをもたらすことを認めつつも,それらを生物体の形成に当てはめるには,組織のパターン形成の様式を理解する必要があるとしている.生命現象は,物質レベルの素子にまで分解すれば解明できるとする見解は昔から優勢だが,それらの組み合わせ方を知らなければ再構成ができない,つまりいろいろなレベルでの知識が必要であるという意見に私も賛成する.実験や理論ではなく,事実の整理が本書の目的だとし,13章にわたってきわめて概念的な記述が展開されている.

主なトピックを拾うと,発達中の器官の相互干渉,信号としてのホルモン,カルスと腫瘍の発達,組織の極性,管束の分化,細胞系譜,meristemoid 発達の一例としての気孔,頂端分裂組織,葉の付着位置,などである.それぞれの章は,他章の引用はあるものの,独自に総説として完結しているので,形態や発生の仕事をする際に全体像をつかむのに役立つだろう.巻末に文献リスト(27頁),著者索引(4頁),事項索引(6頁)がある.本書はこれら文献を整理したものであるが,論文というものは法則性の追求が主体となるから,不規則な現象は対象となりにくい.そういう論文から抽出した概念は,必要以上に規則性が強調されてはいらないかと心配する.たとえば葉の付着位置の章では,葉序が整然としていることを前提に話しが進められているが,実際には例外の方が多いのではなかろうかという気がする. (金井弘夫)